

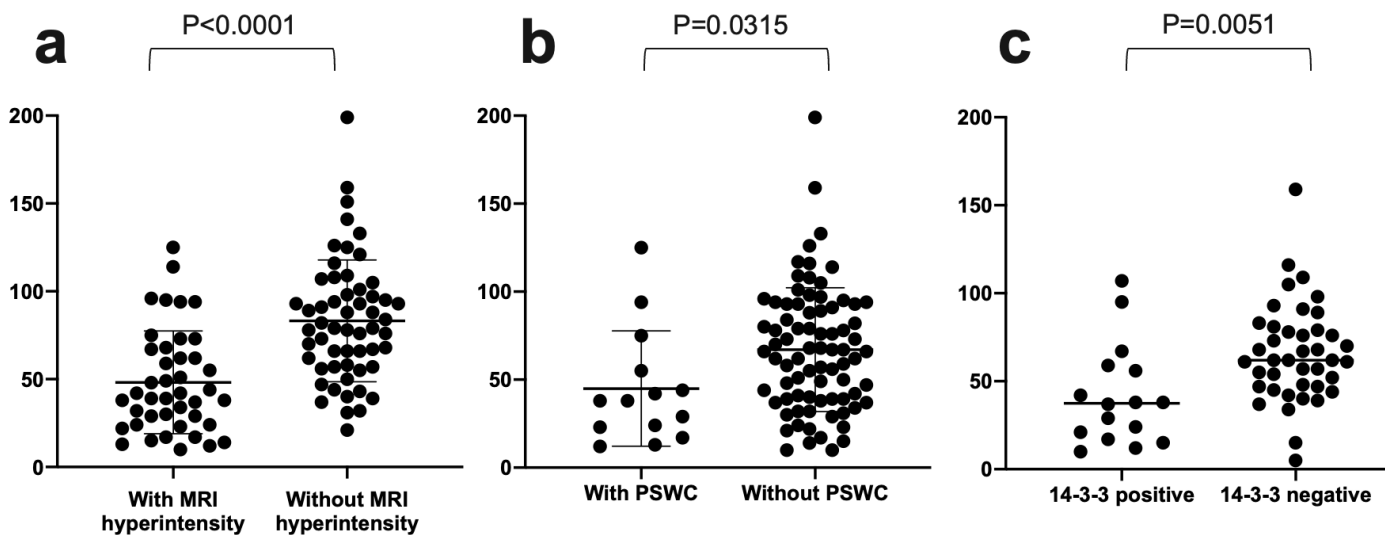
## 本邦におけるGSS-P102Lの臨床疫学的検討(続報)

研究分担者：国際医療福祉大学 村井弘之

### MRI

### EEG

### 14-3-3



### 解 説

1. GSS-P102Lが、計152人集積され、これはこれまでで最大の解析数である
2. 平均発症年齢は55.4歳、家族歴を有する割合は88.5%にのぼった
3. 初発症状は73.5%が小脳失調であり、認知症の11.3%を大きく上回った
4. MRIの高信号を有する群、脳波のPSDを有する群、髄液中に14-3-3が検出される群は、陰性群と比較して死亡までの期間が有意に短かった